

## 会 議 録

1 会議名	第3回南砺市男女共同参画推進審議会
2 議題(公開)	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 付議事項 ①「南砺市男女共同参画推進プラン<第2次改訂>成果目標指数の進捗状況について ②「南砺市男女共同参画推進プラン<第3次>策定に向けてのアンケート結果について 4. その他 5. 副会長あいさつ 6. 閉会
3 開催日時	令和8年2月20日(金) 開会時間:午後7時/閉会時間:午後8時45分
4 開催場所	南砺市役所 本館3階 302会議室
5 会議出席者	[委員:出席11名/全14名] ※50音順 岩井 透、越後 佑子、大坪 久美子、此尾 雅子、佐竹 弘昭、戸成 博宣、 中川 敬子、宮林 悠夏、百生 詩緒子、山崎 賢治、渡邊 美和子 [委員:欠席3名] 安達 望、此尾 治和、津田 博美 [市:出席3名] 事務局 南砺で暮らしません課 課長 大浦 幸恵 “ ジェンダーギャップ対策・婚活若者係 係長 谷口 英里 “ “ 主任 米 由香利
6 傍聴者	なし
7 会議記録	
開会	午後7時00分 ・新任委員紹介
会長あいさつ	会長 第3回ということで、前回の審議会から半年以上空きましたが、その間に実施したアンケートの結果が出てまいりました。本日はその結果を皆さんと共有し、第3次プランに向けた議論を深めていきたいと思っております。5年、10年という長期計画の途中で、社会情勢や人々の認識は刻々と変化しています。南砺市が時代に取り残されないよう、より良い計画を策定していかなければならないと改めて感じております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

付議事項	<p>①「南砺市男女共同参画推進プラン＜第2次＞成果目標の進捗状況評価について</p> <p>(事務局より説明)</p> <p>事務局</p> <p>資料1に基づきまして、第2次改定プランの成果目標指数の進捗状況を報告いたします。第1回会議にて令和5年度の状況を共有いたしました。今回は令和6年度の状況として修正したものを提示しております。評価区分は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* A 評価(25.0%): 成果目標を達成、または順調に進展している。</li> <li>* B 評価(46.0%): 成果は現れているが、引き続き改善を要する。</li> <li>* C 評価(29.0%): 成果が現れていない、または見直しを要する。</li> </ul> <p>令和5年度と比較しますと、A 評価は変わりませんが、B 評価が微増し、C 評価が少し減ったという状況です。全28項目について、具体的な実績と検証結果を資料2に記載しております。</p> <p>会長</p> <p>ありがとうございました。これまでのご説明で何かご質問はありますでしょうか？</p> <p>L 委員</p> <p>このABC 評価についてですが、C 評価の項目は、次の計画を立てる際に重点的に取り組む、あるいは見直しを行うという理解でよろしいでしょうか。</p> <p>事務局</p> <p>はい。評価区分としては、施策の効果があまり現れていない、あるいは見直しを要するものとしております。特にC 評価の項目について具体的に申し上げますと、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 「南砺市がジェンダーギャップ解消に取り組んでいる」と回答した市民の割合</li> <li>* 行政における女性管理職の割合</li> <li>* 地域づくり協議会における女性役員の割合</li> <li>* 地域づくり協議会における女性副会長の割合</li> <li>* 地域づくり協議会における女性事務局長の割合</li> </ul> <p>ジェンダーギャップ対策として進めてはおりますが、数字としてはまだまだ足りないのが現状です。第3次プランの検討の中で、これらの指標が今のままでよいのか、あるいはなぜ成果が出なかったのかという検証も含めて議論していくことになります。</p>
------	--

現状の定量的評価を踏まえ、次に市民や企業の意識という定性的側面を探るアンケート結果を報告いたします。

## ②男女共同参画に関するアンケート調査結果(市民・自治会・事業者)の分析報告

(事務局より説明)

事務局

資料3の概要版に基づき、アンケート結果を報告いたします。

1. 市民意識の動向 男女の平等感について、平成27年度の前回調査と比較すると、「男性が優遇されている」と感じる人の割合が増加しています。特に政治や社会通念、慣習の場では「男性優遇」とする回答が7割を超えています。これは状況が悪化したというより、市民の意識が向上したことで、これまで当たり前だと思っていた不平等に「気づく人」が増えた、という相対的な変化である可能性も考えられます。一方で、「男は仕事、女は家庭」という意識については、今回「反対」が「賛成」を大きく上回っており、人々の意識が着実に変化していることが伺えます。

2. 家事・育児・介護の分担と支援 家庭内での分担は依然として女性に偏っています。育児休業については、女性への支援はある程度進んでいると評価されていますが、男性への支援については「不十分」とする回答が6割に達していません。男性の育休取得率は伸びていますが、取得期間は「1ヶ月未満」が6割を占めており、短期間に留まっている実態があります。

3. 町内会・自治会における現状 町内会長は、回答のあった全自治会で男性でした。女性役員がいる自治会は8.6%と、前回の2.6%からは上昇したものの、依然として1割に届きません。女性役員が選出されない理由として、「性別に決まりはないが、慣習として男性が選出される」が64.8%と圧倒的に高くなっています。

4. 企業・事業者における女性活躍 女性管理職の割合は21.0%で、前回より上昇傾向にあります。しかし、女性管理職が少ない理由として、「管理能力や知識を有する女性責任者がいない(27.0%)」、「女性自身が管理職を望んでいない(23.7%)」といった回答が上位を占めています。

5. 調査から見える構造的課題 詳細版資料の6ページには、本市の課題を示唆するデータがあります。南砺市から「引っ越したい理由」として、「近所付き合いや土地柄に馴染めない」を挙げた割合が、女性よりも男性の方が高くなっています。また、自治会において「女性だけが担っている役職がある」と答えた割合は15.9%でした。意識の上では「男女平等が必要」とする声が8割近くに達してい

ますが、実際の役割分担や意思決定の場への参画には依然として大きな隔りがあります。「意識の変化と実態の乖離」こそが、本市が解決すべき核心的な課題です。

提示された膨大な調査データに対し、各委員が専門的見地からどのような課題を見出したか、核心的な議論へと展開させます。

#### L 委員

アンケートの有効性を考える上で、回答者の属性(年齢・性別)を精査する必要があります。特に事業所や自治会の回答は代表者である男性の視点を中心となっていないでしょうか。この数字が「誰の認識」に基づいているのかを慎重に見極めなければ、実効性のあるプランにはなりません。

#### 事務局

今回は2,000人に配布し、794人から回答を得ました。回収率としては高い方だと評価されています。年齢層等の詳細な属性も、次回の分析に反映させたいと思います。

#### G 委員

この調査の回答者数が有効かどうかの確認が必要ではないでしょうか。

#### K 委員

前回のアンケート結果も男女別年齢別での比較ができるとよいと思います。

#### M 委員

「男性が地域に馴染めない」という結果についてですが、これは南砺市固有の「お祭り」などの地域行事が大きく影響しているのではないのでしょうか。お祭りなどの伝統行事が、今の若い世代や移住者にとっての重荷となり、「お祭りのない場所を選んで引っ越す」という選択肢を生んでいる現実があります。

#### D 委員

「男は仕事、女は家庭」という固定観念で生きてきた男性ほど、定年後に「家庭人」や「地域人」としての居場所がなく、孤立しやすい傾向にありますね。また、若手男性からも「女性の意見が通らないだけでなく、若い男性の意見も、年配層中心の場では全く通らない」という声が上がっています。ジェンダーだけでなく、世代間の断絶も深刻な課題です。南砺市の強みとして、幼少期からの「セクシュアリティ教育(ジェンダー平等教育)」が挙げられます。

#### L 委員

3年間で全地域の保育園の園児や職員が研修を受けるこの取り組みは、全国的にも極めて先進的です。

<p>その他</p>	<p>事務局</p> <p>次期プランでは、こうした具体的な活動がどのような意識変化に繋がったのか、数字の背後にある「理由」を丁寧に追い、成果指標と結びつけていく必要があります。</p> <p>今後のスケジュールですが、令和7年度から8年度にかけて全5回程度の審議会を開催し、第3次プランを策定していきます。現在、国の「第6次男女共同参画基本計画」の閣議決定が遅れており、現在は第5次計画に基づいた運用となっています。国の第5次に基づいた計画として素案を作成することとしてよろしいでしょうか。</p> <p>L 委員</p> <p>国の第6次プランには女性にも選ばれる地域づくりの推進が盛り込まれていると聞いています。これは、今南砺市は力を入れて取り組んでいるところであり、盛り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>G 委員</p> <p>5年後、10年後のことも考えて、やはり6次も必要な部分は取り入れるべきではないのでしょうか。</p> <p>会長</p> <p>南砺市の期プランにおいても、これらを柔軟に取り入れ、「研修を何回やったか」という活動実績だけでなく、それがどう「意識の変化」に結びついたかを測るスモールステップの指標を検討して行く必要があると思います。</p> <p>国や県の計画をなぞるだけでなく、南砺市らしい、市民の皆さんが希望を持てる計画にしていきましょう。それでは、付議につきましては以上で終了いたします。</p> <p>今後のスケジュールについて (事務局より説明)</p>
<p>副会長あいさつ</p>	
<p>閉会</p>	<p>午後8時45分</p>